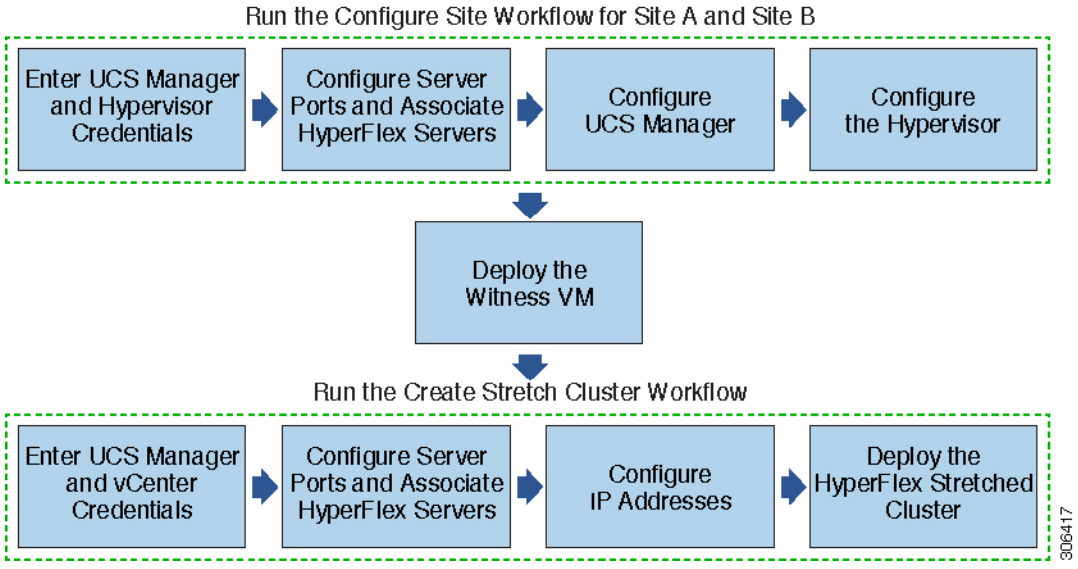
インストール

- 設置の概要 （1 ページ）
- ストレッチ クラスタ サイトの作成 （3 ページ）
- HyperFlex ストレッチ クラスタの作成。 （12 ページ）

設置の概要

次のインストール ワークフローは、ストレッチ クラスタ の作成、HX Data Platform インストーラ の仕様に関する手順をまとめています。



インストール時に次のワークフローに従ってください。

ステップ	説明	参照先
ストレッチクラスタサイトの作成—サイトAとサイトBのサイトの設定のワークフローを実行します。	HX Data Platformインストーラにログインします。両方のサイトにUCS Managerクレデンシャルとハイパーバイザのクレデンシャルを入力します。	クレデンシャルの入力 （3ページ）
	サーバポートを設定し、HyperFlexサーバを関連付けます。	HyperFlexサーバの関連付け （6ページ）
	アウトオブバンドCIMC、インバンドCIMC、iSCSiストレージ、およびFCストレージのVLAN、MACプール、'hx ext管理'IPプールを設定します。	UCS Managerの設定 （7ページ）
	ハイパーバイザを設定します。	ハイパーバイザの設定 （10ページ）
補助VMをダウンロードし展開します。	（注） 補助VMは、HyperFlexストレッチクラスタ環境で必須です。	ウィットネス ノードの展開
HyperFlexストレッチクラスタの作成—ストレッチクラスタワークフローの作成を実行します。	サイトAとサイトB、およびvCenterクレデンシャルには、UCS Managerクレデンシャルを入力してください。	クレデンシャルの入力 （13ページ）
	サーバポートを設定し、HyperFlexサーバを関連付けます。	HyperFlexサーバの関連付け （15ページ）
	IPアドレスを設定します。	IPアドレスの設定 （16ページ）
	HyperFlexストレッチクラスタを展開します。	HyperFlexストレッチクラスタの導入 （18ページ）

ストレッチ クラスタ サイトの作成

始める前に

- 前提条件を満たします。詳細は、設置前チェックリストを参照してください。
- 補助 VM をダウンロードし展開します。

以下の手順を使用して、Cisco HX Data Platform インストーラ を介して Cisco HyperFlex ストレッチ クラスタ インストールおよび設定します。

ステップ 1 Cisco HX Data Platform インストーラにログインします。

ステップ 2 [**ワークフロー**] ページで、[**クラスタの作成**] ドロップダウン リストから [**ストレッチ クラスタ**] を選択します。[Continue] をクリックします。

ステップ 3 [**クレデンシャル**] ページで、UCS Manager とハイパーバイザ クレデンシャルを入力します。詳細については、クレデンシャルの入力 （3 ページ）を参照してください。

ステップ 4 [**サーバの選択**] ページで、サーバ ポートを設定し HyperFlex サーバを関連付けます。詳細については、HyperFlex サーバの関連付け （6 ページ）を参照してください。

ステップ 5 [**UCSM 設定**] ページで、アウトオブバンド CIMC、iSCSi ストレージ、および FC ストレージの VLAN、MAC プール、'hx-ext-mgmt' IP プールを設定します。詳細については、UCS Manager の設定 （7 ページ）を参照してください。

ステップ 6 [**ハイパーバイザ設定**] ページで、サブネット マスク、ゲートウェイ、およびハイパーバイザ設定を実行します。詳細については、ハイパーバイザの設定 （10 ページ）を参照してください。

ステップ 7 [**サイト設定**] をクリックしてクラスタの作成を開始します。[**Progress**] ページに、さまざまな設定タスクの進捗状況が表示されます。

注意 確認に関する警告を無視しないでください。

詳細については、[**警告**] のセクションを参照してください。

次のタスク

HX Data Platform インストーラ を使用して、HyperFlex ストレッチ クラスタの作成に進みます。詳細については、HyperFlex ストレッチ クラスタの作成。 （12 ページ）を参照してください。

クレデンシャルの入力

UCS Manager クレデンシャルとハイパーバイザを、ストレッチ クラスタ全体に両方のサイトで入力します。

始める前に

- インストールの前提条件を準備します。詳細は、設置前チェックリストを参照してください。
- 補助 VM をダウンロードし展開します。

ステップ 1 Cisco HX Data Platform インストーラにログインします。

a) Web ブラウザで、HX Data Platform インストーラVM の IP アドレスまたはノード名を入力します。[Accept] または [Continue] をクリックして SSL 証明書エラーをバイパスします。Cisco HX Data Platform インストーラログイン時に、ログイン画面の右下隅に表示される [HX Data Platform インストーラ **Build ID**] を確認します。

b) ログイン ページで、次のクレデンシャルを入力します。

ユーザ名：`root`

パスワード（デフォルト）：`Cisco123`

重要 システムは、デフォルトのパスワード [`Cisco123`] で出荷されますので、インストール中にこれを変更する必要があります。新しいユーザがパスワードを指定していない限り、インストールを続行できません。

c) EULA を読んで、 **[I accept the terms and conditions]** チェックボックスをオンにし、[**Login**] をクリックします。

ステップ 2 [**Workflow**] ページで、[**クラスタを作成**] ドロップダウンリストから、[**クラスタをストレッチ**] を選択します。[Continue] をクリックします。

ステップ 3 [**クレデンシャル**] ページで、[**サイトを設定**] を選択します。

クラスタ作成を実行するために、必要な設定データとともに*JSON configuration* ファイルをインポートすることもできます。次の 2 つの手順は、JSON ファイルをインポートする場合はオプションです。インポートしない場合には、データを必須フィールドに手動で入力できます。

（注） 初めてのインストールでは、ファクトリ プレインストール JSON ファイルの調達についてシスコの担当者に問い合わせてください。

1. [**Select a file**] をクリックして、使用する *JSON* ファイルを選択して設定をロードします。[**Use Configuration**] を選択します。
2. Cisco UCS Manager 用にインポートした値が異なる場合は、[**Overwrite Imported Values**] ダイアログ ボックスが表示されます。[**Use Discovered Values**] を選択します。

ステップ 4 UCS Manager には、次のクレデンシャルを入力します。

このサイトの UCS Manager クレデンシャル

フィールド	説明
[UCS Manager Host Name] フィールド	UCS Manager FQDN または IP アドレスを入力します。 たとえば *10.193.211.120* と入力します。
[UCS Manager User Name] フィールド	管理者レベルのユーザー名を入力します。 例えば、<*admin*>。
[Password] フィールド	管理者レベルのパスワードを入力します。 例えば、<*root*>。
[サイト名（Site Name）] フィールド	ユニークなサイト名を指定します。

ステップ 5 ハイパーバイザには、次のクレデンシャルを入力します。

ハイパーバイザのクレデンシャル

フィールド	説明
[Admin User Name] フィールド	[administrative username] を入力します。 例えば、<*admin*> ユーザー名。 ユーザー名は、ファクトリー ノードの **root** です。
[このノードのハイパーバイザには工場出荷時パスワードを使用する] チェック ボックス	ハイパーバイザについて、工場出荷時パスワードを変更する場合は、このチェックボックスをオンにします 現在のハイパーバイザのパスワードを入力するには、このチェックボックスをオフにします。これで **[最新のハイパーバイザのパスワードを入力]** フィールドに、ハイパーバイザのパスワードを入力できます。
New Password	ハイパーバイザの新しいパスワードを作成します。 **重要** 工場出荷時パスワードを変更するように要求されます。
新しいパスワードの確認	ハイパーバイザの新しいパスワードを再入力します。

ステップ 6 [続行] をクリックして、HyperFlex サーバへの関連付けを開始します。HyperFlex サーバの関連付け （6 ページ）を参照してください。

HyperFlex サーバの関連付け

[**サーバの選択**]ページで、右の[**設定**]ページに使用する**クレデンシャル**の詳細なリストが表示されます。[Server Selection] ページには、[Unassociated] タブの下に関連付けされていない HX サーバのリストと、[Associated] タブの下に検出されたサーバのリストが表示されます。

フィールド	説明
Locator LED カラム	サーバーの検索をオンにします。
Server Name カラム	サーバに割り当てられている名前。
[Status] カラム	• Inaccessible • Ok
[Model] カラム	サーバ モデルが表示されます。
[Serial] カラム	サーバのシリアル番号を表示します。
サービス プロファイル カラム [関連付けられたサーバのみ]	サーバに割り当てられているサービスプロファイル。
[Actions] ドロップダウン リスト	• [**KVM コンソールの起動**]—HX Data Platform インストーラ から直接 KVM コンソールを起動するには、このオプションを選択します。 • [Disassociate Server]：サービス プロファイルをそのサーバから削除するには、このオプションを選択します。

始める前に

クレデンシャル ページで、UCS Manager、vCenter、およびハイパーバイザ クレデンシャルの入力を完了していることを確認します。クレデンシャルの入力 （3 ページ）を参照してください。

ステップ 1 [**サーバ ポートの設定**]ボタンを使用することで、新しいすべての HX ノードを検出できます。[**サーバ ポートの設定**]ダイアログ ボックスで、サーバ ポートとして設定するすべてのポートをリストします。[Configure] をクリックします。

（**注**） 一般に、設定を開始する前に Cisco UCS Manager でサーバ ポートを設定します。

ステップ 2 [**関連付けなし**] タブからサーバを選択し、HyperFlex クラスタに含めます。

HX サーバがこの一覧に表示されていない場合、Cisco UCS Manager を調べてそれらが検出されていることを確認します。

（注） 関連付けられていないサーバがない場合は、次のエラーメッセージが表示されます。

```
No unassociated servers found. Login to UCS Manager and ensure server ports are enabled.
```

ステップ 3 [続行] をクリックして UCS マネージャーを設定します。UCS Manager の設定 （7 ページ） を参照してください。

UCS Manager の設定

[**UCSM 設定**] ページで、アウトオブバンド CIMC、iSCSi ストレージ、および FC ストレージの VLAN、MAC プール、'hx-ext-mgmt' IP プールを設定することができます。

始める前に

HyperFlex クラスタ上のサーバを関連付けます。HyperFlex サーバの関連付け （6 ページ） を参照してください。

ステップ 1 [**VLAN 設定**] セクションで、次のフィールドを入力します。

（注） 次の各ネットワークにそれぞれ個別のサブネットと VLAN を使用します。

フィールド	説明
ハイパーバイザおよび HyperFlex 管理の VLAN	
[**VLAN 名**] フィールド	hx-inband-mgmt
[**VLAN ID**] フィールド	デフォルト—3091
VLAN for HyperFlex Storage traffic	
[**VLAN 名**] フィールド	hx-storage-data
[**VLAN ID**] フィールド	デフォルト—3092
VLAN for VM vMotion	
[**VLAN 名**] フィールド	hx-vmotion
[**VLAN ID**] フィールド	デフォルト—3093
VLAN for VM Network	
[VLAN Name] フィールド	vm-network
[**VLAN ID**] フィールド	デフォルト—3094 ゲスト VLAN のカンマ区切りリスト。

ステップ 2 [**MAC プール**] セクションで、2 つ以上の 16 進文字（0-F）を追加し [**MAC プール プレフィックス**] を設定します。

（注） すべての UCS ドメイン間で他の MAC アドレス プールに使用されていないプレフィックスを選択します。

```
Example:
00:25:B5:A0.
```

ステップ 3 [**アウトオブバンド CIMC の hx-ext-mgmt' IP プール**] セクションで、次のフィールドを入力します。

フィールド	説明
[**IP ブロック**] フィールド	HyperFlex ノードに指定された IP アドレスの範囲。IP アドレスは、ゲスト VLAN の値のカンマ区切りリストにできます。 たとえば、*10.193.211.124-127, 10.193.211.158-163* などです。
[Subnet Mask] フィールド	IP アドレスを制限して制御するために、サブネットを適切なレベルに設定します。 たとえば、*255.255.0.0* と指定します。
[Gateway] フィールド	IP アドレスを入力します。 たとえば、*10.193.0.1* と指定します。

ステップ 4 外部ストレージを追加する場合は、以下のフィールドに記入して **iSCSI ストレージ** を設定します。

フィールド	説明
[**iSCSI ストレージの有効化**] チェックボックス	チェックボックスをオンにして iSCSI ストレージを設定します。
[**VLAN A 名**] フィールド	プライマリ ファブリック インターコネクト（FI-A）で、iSCSI vNIC に関連付けられている VLAN の名前。
[**VLAN A ID**] フィールド	プライマリ ファブリック インターコネクト（FI-A）で、iSCSI vNIC に関連付けられている VLAN の ID。
[**VLAN B 名**] フィールド	下位のファブリック インターコネクト（FI-B）で、iSCSI vNIC に関連付けられている VLAN の名前。
[**VLAN B ID**] フィールド	下位のファブリック インターコネクト（FI-A）で、iSCSI vNIC に関連付けられている VLAN の ID。

ステップ 5 外部ストレージを追加する場合は、以下のフィールドに記入して **FC ストレージ** を設定します。

フィールド	説明
[**FC ストレージの有効化**] チェックボックス	FC ストレージを有効にするには、チェックボックスをオンにします、
[**WWxN プール**] フィールド	WW ノード名および WW ポート名の両方を含む WWN プール。それぞれのファブリック インターコネクトに対し、WWPN および WWNN 用の WWxN プールが作成されます。
[**VSAN A 名**] フィールド	プライマリ ファブリック インターコネクト（FI-A）の VSAN の名前。 デフォルト—`hx-ext-storage-fc-a`。
[**VSAN A ID**] フィールド	プライマリ ファブリック インターコネクト（FI-A）のネットワークに割り当てられた一意の ID。 **注意** UCS または Hyperflex システムで現在使用されている VSAN ID を入力しないでください。UCS ゾーニングを使用してインストーラで既存の VSAN ID を入力する場合、ゾーニングは VSAN ID の既存の環境で無効になります。
[**VSAN B 名**] フィールド	下位のファブリック インターコネクト（FI-B）の VSAN の名前。 デフォルト—`hx-ext-storage-fc-b`.
[**VSAN B ID**] フィールド	下位のファブリック インターコネクト（FI-B）のネットワークに割り当てられた一意の ID。 **注意** UCS または Hyperflex システムで現在使用されている VSAN ID を入力しないでください。UCS ゾーニングを使用してインストーラで既存の VSAN ID を入力する場合、ゾーニングは VSAN ID の既存の環境で無効になります。

ステップ 6 [**詳細**] セクションで、次の手順を実行します。

フィールド	説明
[**UCS サーバのファームウェア バージョン**] ドロップダウン リスト	ドロップダウン リストから HX サーバと関連付ける UCS サーバファームウェア バージョンを選択します。UCS ファームウェア バージョンは UCSM バージョンと一致する必要があります。詳細については、最新の Cisco HX データ プラットフォーム リリース ノート を参照してください。 たとえば、*3.2(1d)*。
[**HyperFlex クラスタ名**] フィールド	ユーザー定義名を指定します。HyperFlex クラスタ名は、特定のクラスタ内の HX サーバのグループに適用されます。HyperFlex クラスタ名は、ラベルを識別しやすいようにサービス プロファイルに追加します。
[**組織名**] フィールド	一意の指定 組織名 UCS ドメインの残りの部分から HyperFlex 環境の分離を確認します。

ステップ 7 [**続行**] をクリックして HyperFlex を設定します。ハイパーバイザの設定 （10 ページ）を参照してください。

ハイパーバイザの設定

（注） [**設定**] ウィンドウの [**ハイパーバイザ設定**] ページで、VLAN、MACプール、および IP アドレス プールの情報を確認します。これらの VLAN ID は、環境に応じて変更できます。デフォルトでは、HX Data Platform インストーラによって VLAN が非ネイティブとして設定されます。トランク設定を適切に適用することで、非ネイティブ VLAN に対応するようにアップストリーム スイッチを設定します。

注目 ESXi ネットワーキングが完了している場合は、再インストールの際にハイパーバイザの設定をスキップできます。

始める前に

アウトオブ バンド CIMCの VLAN、MAC プール、'hx-ext-mgmt' IP プールを設定します。外部ストレージを追加する場合は、iSCSI ストレージと FC ストレージを設定します。UCS サーバ ファームウェア バージョンを選択し、HyperFlexストレッチ クラスタ の名前を割り当てますUCS Manager の設定 （7 ページ）を参照してください。

ステップ 1 [**共通 Hypervisor 設定**] セクションで、次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
[Subnet Mask] フィールド	IP アドレスを制限して制御するために、サブネットマスクを適切なレベルに設定します。 たとえば、*255.255.0.0* と指定します。
[Gateway] フィールド	ゲートウェイの IP アドレス。 たとえば、*10.193.0.1* と指定します。
[**DNS サーバ**] フィールド	DNS サーバの IP アドレス。 （注） • DNS サーバがない場合は、HX Data Platform インストーラ の [**クラスタ設定**] ページのいずれのフィールドにもホスト名を入力しないでください。すべての ESXi ホストに静的 IP アドレスとホスト名のみを使用します。 • 複数の DNS サーバを指定する場合は、両方の DNS サーバがカンマ区切りで正しく入力されていることを慎重に確認します。

ステップ 2 [**ハイパーバイザ設定**] セクションで、[**IP アドレスとホスト名を連続させる**] を選択して、IP アドレスを連続にします。次のフィールドに入力します。

（注） ドラッグ アンド ドロップを使用してサーバを並べ替えることができます。

フィールド	説明
[Name] カラム	サーバに割り当てられた名前。
Locator LED カラム	サーバーの検索をオンにします。
[Serial] カラム	サーバのシリアル番号を表示します。
[**静的 IP アドレス**] カラム	すべての ESXi ホストに静的 IP アドレスとホスト名を入力します。
[Hostname] カラム	ホスト名フィールドを空欄のままにしないでください。

ステップ 3 [**サイトの構成 (Configure Site)**] をクリックして、クラスタ作成を開始します。[**Progress**] ページに、さまざまな設定タスクの進捗状況が表示されます。

注意　確認に関する警告を無視しないでください。

詳細については、[**警告**] のセクションを参照してください。

次のタスク

HX Data Platform インストーラから [ストレッチ クラスタの作成 (Create Stretch Cluster)] ワークフローを実行して、HyperFlex ストレッチ クラスタを作成します。詳細については、HyperFlex ストレッチ クラスタの作成。 （12 ページ）を参照してください。

HyperFlex ストレッチ クラスタの作成。

始める前に

- 前提条件を満たします。詳細は、設置前チェックリストを参照してください。
- 両方のサイトにサイトの設定ワークフローを実行します。
- 補助 VM をダウンロードし展開します。

以下の手順を使用して、Cisco HX Data Platform インストーラ を使った Cisco HyperFlex ストレッチ クラスタ を作成します。

ステップ 1　Cisco HX Data Platform インストーラにログインします。

ステップ 2　[**ワークフロー**] ページで、[**クラスタの作成**] ドロップダウン リストから [**ストレッチ クラスタ**] を選択します。[Continue] をクリックします。

ステップ 3　[**クレデンシャル**] ページで [**ストレッチ クラスタの作成**] を選択します。サイト 1 とサイト 2 の UCS Manager クレデンシャルを入力します。vCenter クレデンシャルを入力します。[Continue] をクリックします。詳細については、クレデンシャルの入力 （13 ページ）を参照してください。

ステップ 4　[**サーバの選択**] ページで、サーバ ポートを設定し HyperFlex サーバを関連付けます。詳細については、HyperFlex サーバの関連付け （15 ページ）を参照してください。

ステップ 5　[**IP アドレス**] ページで、ストレージ クラスタに適用する IP アドレスを設定します。詳細については、IP アドレスの設定 （16 ページ）を参照してください。

ステップ 6　[**クラスタの設定**] ページで、HyperFlex ストレッチ クラスタを設定および展開します。詳細については、HyperFlex ストレッチ クラスタの導入 （18 ページ）を参照してください。

ステップ 7　[**開始**] をクリックして、ストレッチ クラスタの展開を開始します。[**進捗状況**] ページには、さまざまな設定タスクの進捗状況が表示されます。

次のタスク

[**HyperFlex 接続の起動**] をクリックして、HyperFlex ストレッチ クラスタ を管理します。

クレデンシャルの入力

サイト 1 とサイト 2 の UCS Manager クレデンシャルを入力し、vCenter の資格情報を入力します。

始める前に

- 前提条件を満たす必要があります。詳細は、設置前チェックリストを参照してください。
- 補助 VM をダウンロードし展開します。
- HyperFlex Stretched Cluster の設定を完了します。詳細については、ストレッチ クラスタ サイトの作成 （3 ページ）を参照してください。

ステップ 1 Cisco HX Data Platform インストーラにログインします。

a) Web ブラウザで、HX Data Platform インストーラVM の IP アドレスまたはノード名を入力します。[Accept] または [Continue] をクリックして SSL 証明書エラーをバイパスします。Cisco HX Data Platform インストーラ ログイン ページで、ログイン画面の右下隅に表示される [HX Data Platform インストーラ **Build ID**] を確認します。

b) ログイン ページで、次のクレデンシャルを入力します。

ユーザ名：`root`

パスワード（デフォルト）： `Cisco123`

重要 システムは、デフォルトのパスワード [`Cisco123`] で出荷されますので、インストール中にこれを変更する必要があります。新しいユーザがパスワードを指定していない限り、インストールを続行できません。

c) EULA を読んで、 **[I accept the terms and conditions]** チェックボックスをオンにし、[**Login**] をクリックします。

ステップ 2 [**Workflow**] ページで、[**クラスタを作成**] ドロップダウンリストから、[**クラスタをストレッチ**] を選択します。[Continue] をクリックします。

ステップ 3 [**クレデンシャル**] ページで、[**ストレッチ クラスタの作成 (Create Stretch Cluster)**] を選択します。

ステップ 4 サイト 1 とサイト 2 の次の UCS Manager クレデンシャルを入力します。

クラスタ作成を実行するために、必要な設定データとともに*JSON configuration* ファイルをインポートすることもできます。次の 2 つの手順は、JSON ファイルをインポートする場合はオプションです。インポートしない場合には、データを必須フィールドに手動で入力できます。

（注） 初めてのインストールでは、ファクトリ プレインストール JSON ファイルの調達についてシスコの担当者に問い合わせてください。

1. [**Select a file**] をクリックして、使用する *JSON* ファイルを選択して設定をロードします。[**Use Configuration**] を選択します。
2. Cisco UCS Manager 用にインポートした値が異なる場合は、[**Overwrite Imported Values**] ダイアログ ボックスが表示されます。[**Use Discovered Values**] を選択します。

サイト 1 の UCS Manager クレデンシャル

フィールド	説明
[**UCS Manager ホスト名 (UCS Manager Hostname)**] フィールド	サイト 1 とサイト 2 の UCS Manager FQDN または IP アドレス たとえば *10.193.211.120* と入力します。
[User Name] フィールド	管理者レベルのユーザー名を入力します。 例えば、<*admin*> ユーザー名。
[Password] フィールド	管理者レベルのパスワードを入力します。 <*root*> パスワードを入力します。
[サイト名（Site Name）] フィールド	ユニークなサイト名を指定します。
[**組織名 (Org Name)**] フィールド	一意の組織名 (Org Name) を指定し、残りの UCS ドメインからの HyperFlex 環境の分離が保証されます。

サイト 2 の UCS Manager クレデンシャル

フィールド	説明
[UCS Manager Host Name] フィールド	サイト 2 の UCS Manager FQDN または IP アドレスを入力します。 たとえば *10.193.211.120* と入力します。
[User Name] フィールド	管理者レベルのユーザー名を入力します。 例えば、<*admin*> ユーザー名。
Password field	管理者レベルのパスワードを入力します。 <*root*> パスワードを入力します。
[サイト名（Site Name）] フィールド	ユニークなサイト名を指定します。
[**組織名 (Org Name)**] フィールド	一意の組織名 (Org Name) を指定します。これにより、残りの UCS ドメインからの HyperFlex 環境の分離が保証されます。

ステップ 5 vCenter には、次のクレデンシャルを入力します。

vCenter クレデンシャル（vCenter Credentials）

フィールド	説明
[**vCenter Server**] フィールド	vCenterサーバ FQDN または IP アドレスを入力します。 たとえば *10.193.211.120* と入力します。 （注） • vCenter Server 入力は、入れ子になった vCenter を構築する場合には省略可能です。詳細については、『Nested vCenter TechNote』を参照してください。vCenter Server は、クラスタが動作可能になる前に必要です。 • vCenterアドレスとクレデンシャルは、vCenter へのルート レベルの管理者権限が必要です。
[User Name] フィールド	[administrative username] を入力します。 例：*administrator@vsphere.local*。
[Admin Password] フィールド	管理者レベルのパスワードを入力します。 <*root*> パスワードを入力します。

ステップ 6 [**続行**] をクリックして、HyperFlex サーバへの関連付けを開始します。HyperFlex サーバの関連付け （15 ページ）を参照してください。

HyperFlex サーバの関連付け

[**サーバの選択**]ページで、右の [**設定**]ページに使用する**クレデンシャル**の詳細なリストが表示されます。[Server Selection] ページには、[Unassociated] タブの下に関連付けされていない HX サーバのリストと、[Associated] タブの下に検出されたサーバのリストが表示されます。

フィールド	説明
Locator LED カラム	サーバーの検索をオンにします。
Server Name カラム	サーバに割り当てられている名前。
[Status] カラム	• アクセス不可— • Ok—
[Model] カラム	サーバ モデルが表示されます。
[Serial] カラム	サーバのシリアル番号を表示します。

フィールド	説明
サービス プロファイル カラム [関連付けられたサーバのみ]	サーバに割り当てられているサービスプロファイル。
[アクション（Actions）] 列	• **[KVM コンソールの起動]**—HX Data Platform インストーラ から直接 KVM コンソールを起動するには、このオプションを選択します。 • [Disassociate Server]：サービス プロファイルをそのサーバから削除するには、このオプションを選択します。

始める前に

クレデンシャル ページで、UCS Manager、vCenter、およびハイパーバイザ クレデンシャルの入力を完了していることを確認します。クレデンシャルの入力 （13 ページ）を参照してください。

ステップ 1 **[サーバ ポートの設定]** ボタンを使用することで、新しいすべての HX ノードを検出できます。**[サーバ ポートの設定]** ダイアログ ボックスで、サーバ ポートとして設定するすべてのポートをリストします。[Configure] をクリックします。

（注） 一般に、設定を開始する前に Cisco UCS Manager でサーバ ポートを設定します。

ステップ 2 **[関連付けなし]** タブからサーバを選択し、HyperFlex クラスタに含めます。

HX サーバがこの一覧に表示されていない場合、Cisco UCS Manager を調べてそれらが検出されていることを確認します。

（注） 関連付けられていないサーバがない場合は、次のエラーメッセージが表示されます。

```
No unassociated servers found. Login to UCS Manager and ensure server ports are enabled.
```

ステップ 3 **[続行]** をクリックして IP アドレスを設定します。IP アドレスの設定 （16 ページ）を参照してください。

IP アドレスの設定

始める前に

HyperFlex クラスタでサーバを関連付けます。HyperFlex サーバの関連付け （15 ページ）を参照してください。

ステップ 1 **[IP アドレス]** ページで **[IP アドレスを連続させる]** を選択して、IP アドレスを連続させます。

ステップ 2 ハイパーバイザ、ストレージ コントローラ（管理）とハイパーバイザ、ストレージ コントローラ（データ）カラムの最初の行に IP アドレスを入力するとき、 HX Data Platform インストーラ で残りのノードについてもノード情報を段階的に自動入力します。

HX の各ノードについては、ハイパーバイザおよびストレージ コントローラの IP アドレスを入力します。IP アドレスについては、ネットワークがデータ ネットワークまたは管理ネットワークに属しているかを指定します。

フィールド	説明
[**管理ハイパーバイザ**] フィールド	ESXi ホストとストレージ クラスタ間のハイパーバイザ管理ネットワーク接続を処理する静的IPアドレスを入力します。
[**管理ストレージ コントローラ**] フィールド	ストレージ コントローラ VM とストレージ クラスタ間のストレージコントローラ VM 管理ネットワーク接続を処理する静的 IP アドレスを入力します。
[**データ ハイパーバイザ**] フィールド	ESXi ホストとストレージ クラスタ間のハイパーバイザ データ ネットワーク接続を処理する静的 IP アドレスを入力します。
[**データ ストレージ コントローラ**] フィールド	ストレージ コントローラ VM とストレージ クラスタ間のストレージ コントローラ VM データ ネットワーク接続を処理する静的 IP アドレスを入力します。

ステップ 3 ここで指定した IP アドレスは、ストレージ クラスタ内の 1 つのノードに適用されます。ノードが利用不能になった場合、影響を受けた IP アドレスがストレージ クラスタ内の別のノードに移動されます。すべてのノードに、これらの IP アドレスを受け入れるように設定されたポートが必要です。

次の IP アドレスを提供します。

フィールド	説明
[**管理クラスタ データの IP アドレス**] フィールド	HX データ プラットフォーム ストレージ クラスタの管理ネットワーク IP アドレスを入力します。
[**データ クラスタ IP アドレス**] フィールド	HX Data Platform ストレージ クラスタのデータ ネットワークの IP アドレスを入力します。
[**管理サブネット マスク**] フィールド	VLAN と vSwitch についてのサブネット情報を入力します。 管理ネットワークのネットワーク値を入力します。たとえば、*255.255.255.0* と指定します。
[**データ サブネット マスク**] フィールド	データ ネットワークのネットワーク値を指定します。たとえば、*255.255.255.0* と指定します。

フィールド	説明
[管理ゲートウェイ] フィールド	管理ネットワークのネットワーク値を指定します。たとえば、*10.193.0.1* と指定します。
[データ ゲートウェイ] フィールド	データ ネットワークのネットワーク値を指定します。たとえば、*10.193.0.1* と指定します。
[補助 IP] フィールド	補助 VM の IP アドレスを提供します。

ステップ 4 [続行] をクリックして HyperFlex ストレッチ クラスタを展開します。詳細については、HyperFlex ストレッチ クラスタの導入 （18 ページ）を参照してください。

HyperFlex ストレッチ クラスタの導入

[クラスタ構成 (Cluster Configuration)] ページで、Cisco HX ストレージ クラスタ の場合、次のフィールドを入力して HyperFlex クラスタの展開を開始します。

始める前に

[IP アドレス] ページで IP アドレスの設定が完了していることを確認します。IP アドレスの設定 （16 ページ）を参照してください。

ステップ 1 [Cisco HX Cluster] セクションで、次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
[Cluster Name] フィールド	HX データ プラットフォーム ストレージ クラスタの名前を指定します。
[Replication Factor] ドロップダウン リスト	ストレージ クラスタ間のデータの冗長レプリカの数を指定します。レプリケーション ファクタを 2 つまたは 3 つの冗長レプリカに設定します。 • ハイブリッド サーバ（SSD および HDD を含むサーバ）の場合、デフォルト値は 3 です。 • フラッシュ サーバ（SSD のみを含むサーバ）の場合は、2 または 3 を選択します。 • 稼働ワークロードには 3 を推奨します。

ステップ 2 [コントローラVM (Controller VM)] セクションで、HyperFlexクラスタの管理ユーザーの新しいパスワードを作成します。

デフォルトの管理者ユーザ名とパスワードがコントローラ VM に適用されます。VM は、コンバージドとコンピューティング専用のすべてのノードにインストールされます。

重要
- コントローラ VM またはコントローラ VM のデータストアの名前は変更できません。
- すべてのコントローラ VM に同じパスワードを使用します。異なるパスワードの使用はサポートされていません。
- 1 つの大文字、1 つの小文字、1 つの数字、1 つの特殊文字を含み、合計で少なくとも 10 文字になる複合パスワードを指定してください。
- 作成するコントローラ VM および HX クラスタにユーザ定義のパスワードを指定できます。パスワードの文字と形式の制限事項については、『*Cisco HX Data Platform Management Guide*』の「Guidelines for HX Data Platform Special Characters」の項を参照してください。

ステップ 3 [**vCenter 構成 (vCenter Configuration)**] セクションで、次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
[vCenter Datacenter Name] フィールド	Cisco HyperFlex クラスタの vCenter データセンターの名前を入力します。
[**vCenter クラスタ名（vCenter Cluster Name**）] フィールド	vCenter クラスタ名を入力します。

ステップ 4 [**システム サービス (System Services)**] セクションで、次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
[**DNSサーバ（DNS Server**）] フィールド	各 DNS サーバの IP アドレスのカンマ区切りリストを入力します。
[**NTP Server**] フィールド	各 NTP サーバの IP アドレスのカンマ区切りリストを入力します。 （注） ストレージ コントローラ VM と ESXi ホストで動作するサービス間のクロック同期のために、すべてのホストが同じ NTP サーバを使用する必要があります。
[DNS ドメイン名（DNS Domain Name）] フィールド	DNS FQDN または IP アドレスを入力します。
[Time Zone] ドロップダウン リスト	スケジュールされたスナップショットをいつ取得するかを決定する、コントローラ VM のローカル タイム ゾーンを選択します。スケジュールされたネイティブ スナップショットの処理はこの設定に基づきます。

ステップ 5 [**自動サポート (Auto Support)**] セクションで、[**自動サポートを有効化します (Enable Connected Services)**] を選択して、自動サポートおよび Cisco Intersight の管理をイネーブルにします。

フィールド	説明
[**自動サポートを有効化します (Enable Connected Services)**] チェックボックス	自動サポートと Cisco Intersight 管理を有効にする場合に選択します。HX Connect にログオンしてこれらのサービスを構成するか、またはそれらを選択的に**オン**または**オフ**にします。
[Send service ticket notifications to] フィールド	自動サポートによってトリガされたときに SR 通知を送信する電子メールアドレスを入力します。

ステップ 6 [**高度なネットワーキング (Advanced Networking)**] セクションで、次のフィールドに入力します。

（注） 拡張されたクラスタの既存の hyperflex ハードウェアを再利用する場合、VM ネットワーク ポートグループが正しい vSwitch で構成されていない可能性があります。正しい vSwitch で VM ネットワークを手動で設定する必要があります。

フィールド	説明
[**Management VLAN Tag - Site 1**] フィールド	トランク ポートを使用している場合は、適切な VLAN ID を入力します。 アクセス ポートを使用する場合は 0 を入力します。 （注） サイト 1 とサイト 2 に同じ管理 VLAN タグを使用します。
[**Management VLAN Tag - Site 2**] フィールド	トランク ポートを使用している場合は、適切な VLAN ID を入力します。 アクセス ポートを使用する場合は 0 を入力します。 （注） サイト 1 とサイト 2 に同じ管理 VLAN タグを使用します。
[**Management vSwitch**] フィールド	デフォルトは vswitch-hx-inband-mgmt です。 （注） VSwitch の名前を変更しないでください。
[**Data VLAN Tag - Site 1**] フィールド	トランク ポートを使用している場合は、適切な VLAN ID を入力します。 アクセス ポートを使用する場合は 0 を入力します。 （注） サイト 1 とサイト 2 に同じデータ VLAN タグを使用します。

フィールド	説明
[**Data VLAN Tag - Site 2**] フィールド	トランク ポートを使用している場合は、適切な VLAN ID を入力します。 アクセス ポートを使用する場合は 0 を入力します。 （注） サイト 1 とサイト 2 に同じデータ VLAN タグを使用します。
[**Data vSwitch**] フィールド	デフォルトは vswitch-hx-storage-data です。

ステップ 7 [高度な設定 **(Advanced Configuration)**]セクションで、次の手順を実行します。

フィールド	説明
ジャンボ フレーム [**ジャンボ フレームの有効化（Enable Jumbo Frames）]** チェックボックス	ホスト vSwitch と vNIC、および各ストレージコントローラ VM のストレージデータネットワークの MTU サイズを設定する場合にオンにします。 デフォルト値は 9000 です。 （注） インストール時に、MTU サイズを 1500 または 9000 バイトのいずれかで選択できます。
Disk Partitions [**ディスク パーティションのクリーンアップ（Clean Up Disk Partitions）**] チェックボックス	手動で準備されたサーバのストレージ クラスタに追加されたすべてのノードから既存のデータおよびパーティションをすべて削除するには、オンにします。既存のデータおよびパーティションを削除するには、このオプションを選択します。保持する必要があるデータは、バックアップする必要があります。 **注目** 工場で準備されたシステムにはこのオプションを選択しないでください。工場で準備されたシステムのディスク パーティションは正しく設定されています。
Virtual Desktop (VDI)（仮想デスクトップ（VDI）） チェックボックス	VDI のみの環境でオンにします。 （注） ストレージ クラスタの作成後に VDI 設定を変更するには、リソースをシャットダウンまたは移動し、変更を加え、クラスタを再起動します。

ステップ 8 [**開始(Start)**] をクリックして、HyperFlexストレッチ クラスタの展開を開始します。[**Progress**] ページに、さまざまな設定タスクの進捗状況が表示されます。

注意　確認に関する警告を無視しないでください。

詳細については、[**警告**] のセクションを参照してください。

次のタスク

- 一部の検証エラー（無効な ESXi パスワード、正しくない NTP サーバ、不正な SSO サーバ、または他の誤った入力）では、パラメータの再入力が必要になる場合があります。[**Re-enter Values**] をクリックして [**Cluster Configuration**] ページに戻り、問題を解決します。
- 完了すると、HyperFlex サーバがインストールされて設定されます。導入されたクラスタのステータスは、[**オンライン (Online)**] および [**ヘルシー (Healthy)**] として表示されます。
- [**HyperFlex 接続の起動 (Launch HyperFlex Connect)**] をクリックして、HyperFlex 拡張クラスタを管理します。